

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

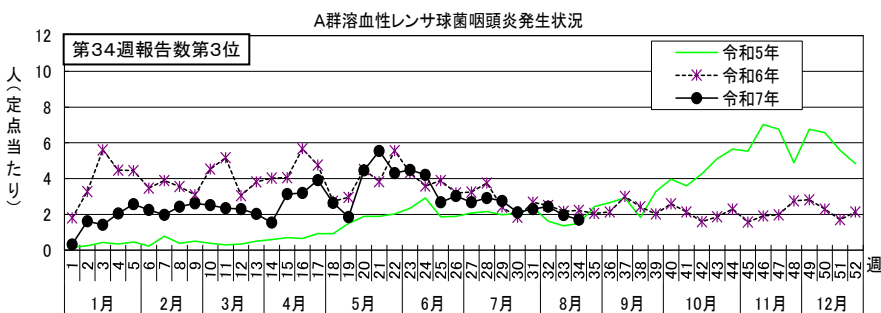
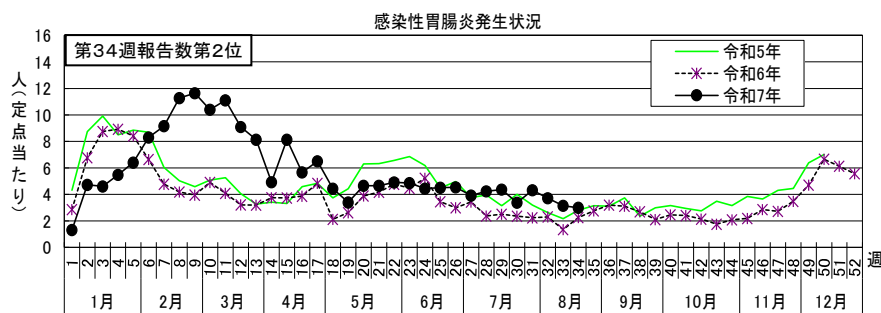
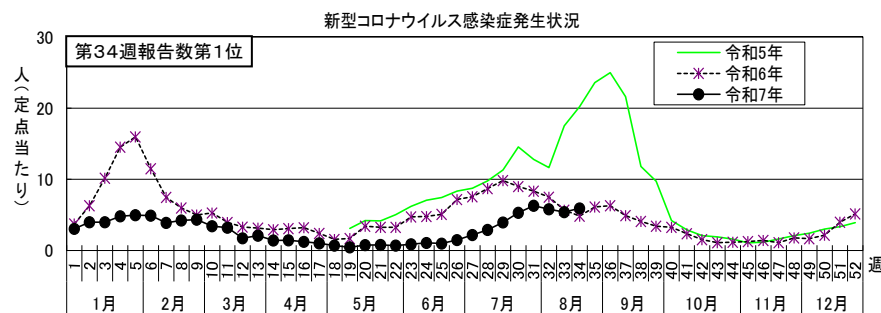
令和7年8月18日（月）～令和7年8月24日（日）〔令和7年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.93人と前週（5.41人）から横ばいでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週（3.15人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.71人と前週（1.96人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



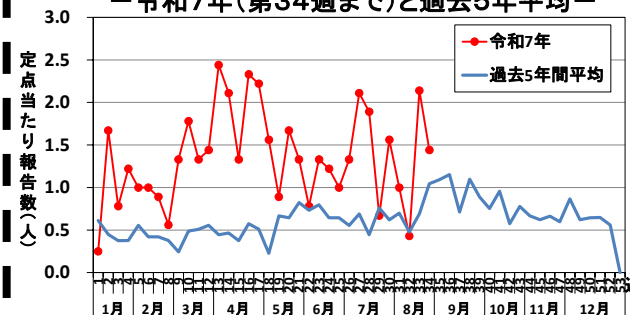
今、気を付けたい感染症～流行性角結膜炎～

川崎市における令和7年第34週（8月18日～24日）の流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.44人となっています。今年は年始から過去5年平均を超える報告が続いていますが、例年8月下旬から9月上旬にかけて報告数が増加する傾向があるため、今後は更に増える可能性もあります。

流行性角結膜炎はアデノウイルスを原因とする疾患で、結膜充血や目やに、流涙等の症状を呈します。2週間程度で軽快することがほとんどですが、新生児や乳幼児では細菌の混合感染により失明する場合があります。

アデノウイルスは感染力が非常に強いため、手洗いやタオル等の共用を避ける等の接触感染対策を徹底することが重要です。また、強い結膜充血や大量の目やに等がみられる場合は、早めに眼科を受診しましょう。

川崎市における流行性角結膜炎の発生状況
—令和7年（第34週まで）と過去5年平均—



流行性角結膜炎とは？

感染経路: 接触感染（感染力が非常に強い。）

潜伏期間: 8～14日間

主な症状: 目やに、結膜充血、流涙、まぶたの腫れなど

予防対策: 手洗いの徹底、タオル等の共用は避ける、おもちゃ等は次亜塩素酸ナトリウムで消毒する等

合併症: 新生児や乳幼児では細菌の混合感染により重症化し、失明することもある。